2016年9月10日　チーム神於山活動報告

2016.9.13
シャープ社友会
チーム神於山　真砂 記

■**活動日**：2016年9月10日（土）　9：00～12：00
■**参加者**：チーム神於山　正会員　10名
■**活動内容**
- 当初の予定はフクロウの巣箱づくりと上部植栽地の整備でしたが、シャープの森の近くでナラ枯れが発生した為、先ず神於山シャープの森の全エリアを踏査し、被害が出ていないか確認しました。
- 結果、心配された林道沿いのコナラの巨木を含め、シャープの森に被害は認められませんでした。
- カシナガ（カシノナガキクイムシ）が、健全なナラに穿入してその木を枯らすのは6月～9月の間といわれていますから、現在被害が出ていなければ取りあえず今年は一安心です。
- ただ、自然林内の全てのナラの木を守ることは出来ませんので、次善の策として林道沿いのコナラの巨木だけは守ることにし、カシナガが活動を開始する来年6月までに対策を講じようと思っています。
- フクロウの巣箱づくりは、設計者の金井さんと板材提供者の香遠さんが共に所用で不参加だったこともあり、板の組み合わせからワイワイガヤガヤ。板材を2台分切り揃えたところで終わりました。
  次回、入り口の位置と形状を決めて穴をあけ、カメラをセットして完成します。
- 参加いただいた10名の会員の皆さん、お疲れ様でした。

■**今後活動目標**
- 次回9月24日はフクロウの巣箱を完成するとともに、フクロウの狩場の整備で、上部植栽地の草刈りに取り組みます。気候も良くなってきました。
  別途ご案内しますので奮ってご参加ください。

■**ナラ枯れ被害調査**　先ずどんなものか確認するため、被害現場に行き、被害木の観察から始めました。

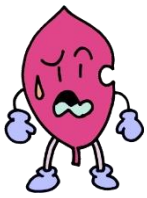
遊歩道沿いのコナラ2本に被害が。枯れて、葉がほとんどありません。

削孔痕は幹根から2m程度の間。

- 直径が40～50ｃｍもある巨木が、わずか4～5mmの虫が媒介する菌で枯死するのを目の当たりにしました。
- 樹にとっては残酷な話です。

直径5～7mmの無数の削孔からフラスが沢山こぼれだしています。傍の葉にもフラスが・・・

- カシナガの削孔痕からは、沢山のフラス（木くずと排せつ物が混じったもの）が噴き出すようにこぼれだしていますから良く解ります。



カシナガの削孔痕

こぼれだしたフラス

追悼の一枚。

・カシナガの被害にあったコナラ（写真左上の 2 本）は、殺虫剤を注入されるか、伐倒されてカシナガが削孔した部分は焼却されることになります。
・殺虫剤を注入されても、枯死していて危険なので、いずれ伐倒されますから、この木はもう見ることは出来なくなります。
・そこで少し早いですが追悼の一枚。

■踏査して見つけたこと。　　久しぶりにシャープの森を離れて、色々なことを見つけました。

1．展望台直下の桜の木が成長して、折角の展望台が“展望できない台”になっています。

左方向には関空や岸和田市内が見える・はず。

正面には大阪湾や淡路島や神戸方面が見える・はず。

・岸和田ロータリークラブが創立 50 周年記念事業として２００４年に建てた展望台は、ハルカスと同じ高さ 300m からの眺望が楽しめる神於山の売りのスポットですが、直下に植樹した桜がスクスク成長していて、折角の景色が桜のために見ることができない状態になっています。

・メンバーから、主幹を詰めて上に伸びないようにするか、除伐するしかないという声が出ましたが、勝手に伐る訳には行きませんので、岸和田市に状況を伝え、善処してもらうことにします。

眺望できず、残念無念の一枚。

2．神於山シャープの森の林道沿いの自然林内に、イノシシの罠が仕掛けられていました。

・林道から自然林エリアに車一台通れるほどの道ができていたので不審に思い中に入ってみると、イノシシの罠が仕掛けられていました。
・鉄製の檻で、イノシシが中に入ると引き上げてある扉が落ちて閉まる仕掛けです。

3．神於山シャープの森の境界線になる尾根道の一部が笹に覆われ通りにくくなっています。

坂道には立派な木の階段が付けられていますが

両側から笹や雑草が被さって危険な場所が。

・神於山シャープの森は、林道と尾根道が境界線で、尾根道は神於山の見どころの一つの「国見台」に通じています。
・尾根道はアップダウンがあることから、急な個所は立派な木の階段が設けられていますが、その約 1/3が笹で覆われ、通りづらい状況になっています。
・また見どころの国見台は、標識は有るものの展望台と同じく木が茂り、名前ばかりになっています。
・そこで岸和田市と連携し、出来るだけ整備したいと思っています。

4．珍しいものと不思議なもの。　　自然林の中にビワの木発見。セミの冬虫夏草発見。

自然林の中のビワの木。

菌類に取りつかれたアブラゼミ。

・自然林の中で珍しいビワの木を見つけました。クヌギやその他の雑木の蔭で、蔦に囲まれていました。どんな実をつけるか見たいので、周辺を整備し、大事にしたいと思います。
・樹の幹に、菌類が取りついたアブラゼミの死骸を見つけました。まだ生きているようです。樹の幹にとまって大往生したのだと思いますが、自然の摂理に任せてそのままにしました。

4．このコナラだけは「カシナガ」から守りたい。

・基地から少し離れた林道沿いの斜面に、幹根から三つに大きく枝分かれしたコナラの木が有ります。
・当初このコナラの回りには、数本のヒノキが有り、日光を遮っていたのでこのようになったのかもしれませんが、珍しい樹形なので周りのヒノキをすべて除伐し、守ることにしたものです。
・コナラは直根をよく発達させ、土砂崩れなどの防止には大きく貢献しますが、このコナラも斜面にしっかり根を下ろし、崩れを守ってくれていると思われます。
・今度は我々がカシナガからこのコナラを守ります。

■フクロウの巣箱づくり。　　ワイワイガヤガヤ・喧々諤々。　方向が決まれば和気あいあい。

自然林の中のビワの木。

・設計者の金井さんと、板材提供者の香遠さんが共に所用で不参加だったこともあり、板の組み合わせからワイワイガヤガヤ。

“底はそこそこ厚い方がいいんとちゃう？”etc

話が決れば切断は慎重に。

２台分の部材が完成し、ほっと一息の一枚。

・次回は、入り口の位置と形状を決めて穴をあけ、カメラをセットして完成します。
・取り付けまで行ければベストですが、先ずは完成したいですね。

以上